

小原温泉 ▶
渓谷美につつまれた
いで湯の里

▼ 鎌先温泉
谷間の閑静な
薬湯の里



温泉

白石・海老名 交流のあゆみ ——共に歴史が息づくまち

両市の交流は、平成3年3月、海老名市が白石市へ友好交流の申し込みを行ったのがきっかけです。

白石市には、海老名市に本社がある企業の工場があり、民間レベルでの交流が図られていたこと、本市にはない観光地としての魅力に富んでいたことが友好都市に選択した理由でした。さらに国分寺跡と白石城と両市には歴史が息づいているといった共通点も注目した部分です。

同年10月、両市民の有志により「海老名・白石親善交流会」が発足。翌11月海老名市制施行20周年記念式典で、両市は友好都市の盟約を結び、交流が始まりました。

——交流都市から姉妹都市へ

より深い友好と理解を進めながら発展していくために、平成6年10月23日、白石市の市制施行40周年記念式典で、「姉妹都市」の盟約を締結しました。

両市の姉妹都市関係は今年で10年。これを記念して、10月8日(金)、海老名市を会場に記念式典が行われます。白石市からは親善訪問団が来訪する予定で、この式典を契機に、両市の交流がより一層深まることが期待されます(記念式典の詳細は10月1日号でお伝えします)。

——市民中心の交流事業

両市の交流は、市民を中心に進められています。「少年野球交流」や「姉妹都市国際親善水泳大会」では、毎年両市の少年・少女たちがスポーツを通じたさわやかな交流に役買っています。

また、「ふるさと豆記者訪問事業」では小学生の代表が「記者」として、「ふるさと」のまちを語る交流事業」では、中学生の代表が、それぞれ互いの地域や学校のことを紹介し、理解を深めあっています。

そのほか、ソフトテニス協会の相互訪問や姉妹都市訪問ツアーの実施などが活発に行われています。

白石をもっと知ろう 訪問ツアー参加者



白石・海老名友好親善交流協会は、姉妹都市訪問バスツアーを実施します。歴史と自然あふれる城下町、姉妹都市に興味のある方はもちろん、温泉とグルメ目的での参加もお待ちしております。

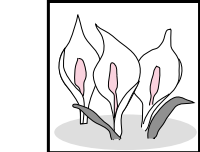
▽日時 11月6日(土) 7日(日) ▽対象 市内在住・在学・在勤の方 ▽募集人員 50人(最少催行人数40人に満たない場合は中止) ▽行程 6日 海老名市役所―東名高速―首都高―東北自動車道―白石城―市内見学―鎌先温泉(泊)※歓迎レセプション ▽7日 鎌先温泉―弥治郎こけし村―碧水

交流協会も募集中

同協会では、会員を募集しています。市内在住・在勤の方と団体が対象で、年会費は個人が2000円、団体は5000円です。詳しい内容については同協会事務局へお問い合わせください。

事務局 同協会事務局(市長室政策担当)。

交流協会



自然

蔵王連峰がお出迎え

みちのくの名峰・蔵王連峰は、宮城県と山形県とにまたがる広大な山岳公園。宮城―山形を結ぶ蔵王エコーラインは、ドライブに格好のコース。三階滝、不動滝などを眺めたり、駒草平などの高原で高山植物を見つれたり、道草しながら頂上へ向かうと一層楽しめます。

頂上の火口湖は「お釜」と呼ばれ、深いエメラルド色の水をたたえた様子は神秘的。また、冬の蔵王を象徴する樹氷は、その優美さで訪れた人を魅了します。



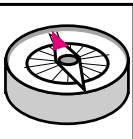
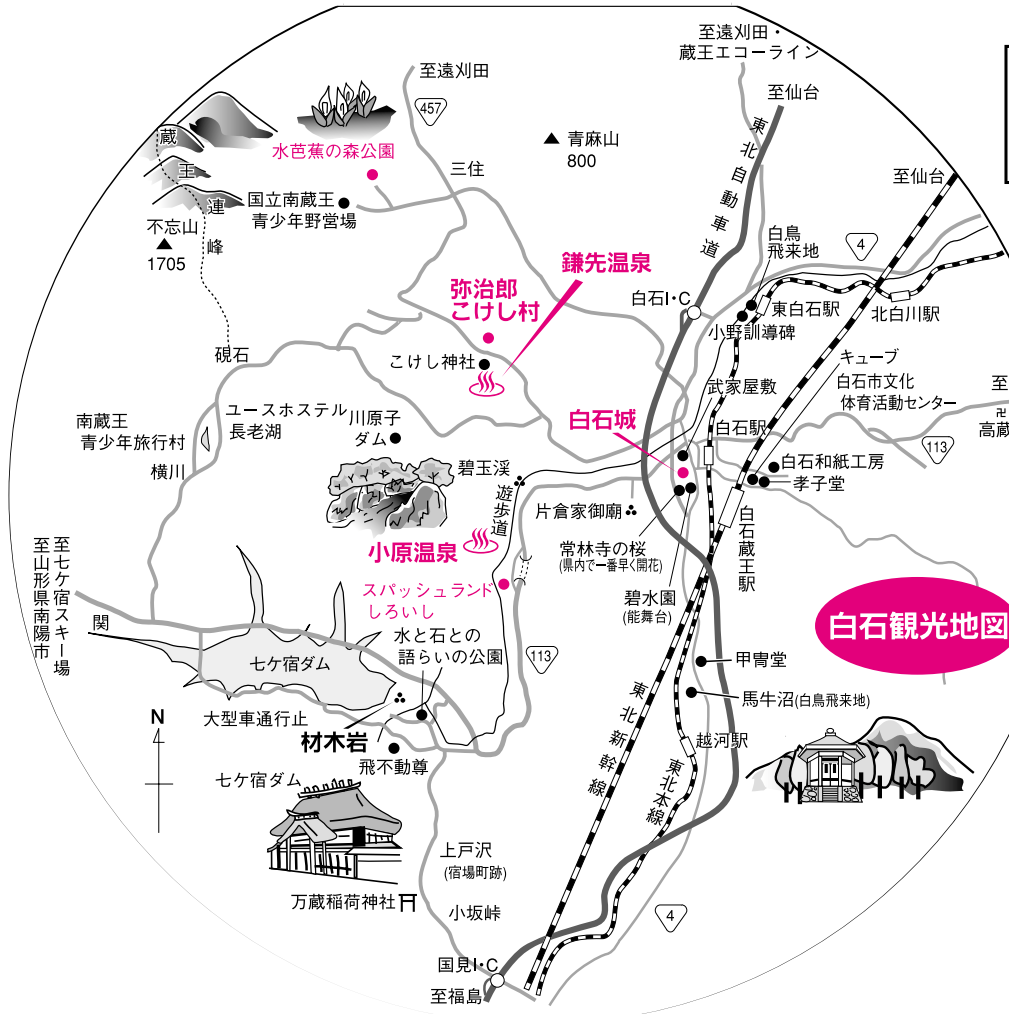
神秘的な「お釜」

春にはミズバショウが咲き誇る

国立南蔵王青少年野営場近くの「水芭蕉の森公園」は、ミズバショウの群生地。トッパシズン(トッパシズン)は4月下旬から5月初めにかけてですので、今から来年の計画を立ててみてはいかがでしょうか。

よ〜くござったない“しろいし”

(白石地方の方言で「遠いところをよくいらいしました」の意)



位置

宮城県の南端、仙台市と福島市のほぼ中間に位置し、雄大な蔵王連峰と阿武隈山系に囲まれた白石盆地内に中心市街地が形成されています。古くから交通の要衝として発展し、1602年、片倉小十郎景綱が白石城主となり、城下町として栄えました。

東北新幹線の利用で白石蔵王駅まで、東京からわずか2時間10分。車では東北自動車道白石インターチェンジまで、始点の補和インターチェンジから約300mの距離です。

行政区画は広く、286.47平方キロメートルと本市の約10倍の面積を有します。人口は約4万人で、市政を施行したのは、本市よりも前の昭和29年で、今年50周年を迎えました。

「独眼竜」で知られる仙台の誇り伊達政宗。その政宗の懐刀として有名な片倉小十郎景綱があるとして治めていたまちこそ、姉妹都市・宮城県白石市です。

平成6年11月に本市と姉妹都市盟約を結んだから、今年で10年。来月に記念式典が行われ、両市の友好関係はより深いものへと進んでいくこととしています。宮城といえは多くの人の目が、「仙台」に向いてしまっ中、今回は、白石市の位置から周辺の見どころに至るまで姉妹都市の魅力をお伝えし、より多くの方に「訪れてみたい」と感じていただく情報を届けたいと思います。

白石市・海老名市 姉妹都市提携10周年



白石城主・片倉小十郎景綱



名産

白石土産の2大横綱



温麺(うーめん)

伝統こけし

温麺には次のようなエピソードがあります。

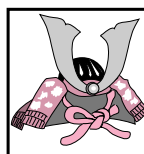
―元禄年間、浅右衛門という男が、旅の僧から油を使わない麺があることを聞きました。苦心の末、浅右衛門はその麺を作ること成功し、胃病を患う父親に食べさせました。小麦粉と塩水だけで作られた麺は、消化が良く、滋養にも富んでいたことから、父親の胃病はたちまち治つてしまいました。その後、白石城主片倉氏の奨励により、その製法が広まり、きれいな水と澄んだ空気が製麺に適していたことから、名産として定着しました。

以来、300余年の伝統を下地に、味、品質を磨きあげ、ゆでやすく、食べやすいと定評を集めています。



この地方の伝統的工芸「弥治郎こけし」。ペレー帽のように彩られたろくろ模様の大きな頭と胴体特徴です。元々は子どものおもちゃとして作られていたものでしたが、今では観賞用として、大人の目にも楽しませてくれています。

伝統こけしの歴史的な変遷やや工人の実演を見学するなら「弥治郎こけし村」展示販売もしているの、おみやげにもってこいです。

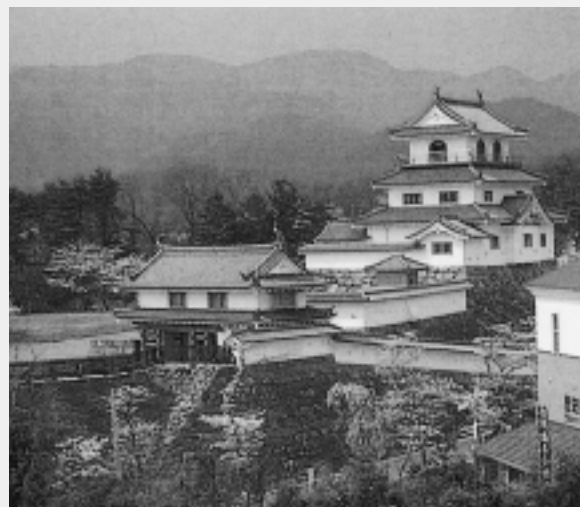


史跡

伊達政宗の重臣 片倉小十郎景綱のふるさと

歴史愛好者の間では、あの「独眼竜」政宗よりも根強いファンが多いといわれている片倉小十郎景綱。若いときから政宗の守り役となつて仕え、常にその傍らにあつて生涯を政宗に捧げ尽くしました。非常に有能で、「智将の景綱」ともいわれました。豊臣秀吉、徳川家康も、景綱の実力を認めて、大名として取り立てようとしたが「自らが生えぬのは伊達政宗だけ」と首を縦にふらなかつたという逸話が残っています。

1602年、白石城を与えられ、12代片倉景綱が北海道に移住する明治2年まで約260年にわたって居城しました。明治7年1874年に民間に払い下げられ、一度は解体されましたが、平成7年に復元されました。



歴史探訪の道・白石ロマンチック街道

白石観光のモデルコースとして、おすすめの「白石ロマンチック街道」。歴史のロマンがある史跡はもちろん、豊かな自然の恵みを満喫できるコースです(右図)。

スタートは、昔の面影そのままの白石城。天守閣に登れば、城下町・白石の一大パノラマが望めます。

次は白石城歴史探訪ミュージアムへ。200インチの立体ハイビジョンシアターで片倉家の歴史映画を鑑賞。展示室では、貴重な歴史的資料を目の当たりにできます。

ゆったり気分で5分ほど歩けば、澄んだせせらぎの音が聞こえてきます。この沢瀉川沿いにあるのが、武家屋敷。片倉家の家臣が住んでいた住居で、当時の武家の暮らしぶりがしのべられます。

コース1:白石市商家資料館(やまぶき亭)で特産品や手技にふれてください。ここで、作りたての「うーめん」で腹ごしらえしたあとは、伝統こけしの技にふれる弥治郎こけし村へ。こけし工人の話を聞いたり、おみやげにお気に入りのこけしを探したり…。終点は勇壮な蔵王へ。温泉に入るのも一興です。

コース2:武家屋敷から分かれるこちらのコースは、歴史遺産と自然の造形美を満喫。

まずは、片倉家御廟へ。初代をはじめ歴代の城主をまつた10体の阿弥陀坐像が並ぶ光景は、荘厳そのもの。

次は、碧玉溪で水と岩と緑のハーモニーを堪能。さらに足を伸ばし、材木岩のダイナミックな景観を楽しんで、水と石との語らいの公園へ。川風に吹かれながら過ごすひとときで、身も心もゆったり気分。

コース1:白石市商家資料館(やまぶき亭)で特産品や手技にふれてください。ここで、作りたての「うーめん」で腹ごしらえしたあとは、伝統こけしの技にふれる弥治郎こけし村へ。こけし工人の話を聞いたり、おみやげにお気に入りのこけしを探したり…。終点は勇壮な蔵王へ。温泉に入るのも一興です。

コース2:武家屋敷から分かれるこちらのコースは、歴史遺産と自然の造形美を満喫。

まずは、片倉家御廟へ。初代をはじめ歴代の城主をまつた10体の阿弥陀坐像が並ぶ光景は、荘厳そのもの。

次は、碧玉溪で水と岩と緑のハーモニーを堪能。さらに足を伸ばし、材木岩のダイナミックな景観を楽しんで、水と石との語らいの公園へ。川風に吹かれながら過ごすひとときで、身も心もゆったり気分。

